

平成 23 年  
11 月 29 日

# 病害虫発生予報 12月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

今年の防除作業を振り返り，次作の防除日誌などの  
準備をしましょう！

## < 目次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病，ハダニ類 . . . . . 1

【その他の病害虫】 . . . . . 2

イチゴ，促成ピーマン

II. 今月の気象予報 . . . . . 3

最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）で確認することができます。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

イチゴ
-----

#### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、発病葉率は平年より高い。また、果実での発病が見られ、発病果率は平年並で、発生地点率は平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 発病を予防するため、硫黄のくん煙処理による省力的な方法もある。
- ⑤ ミツバチ導入後は、ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては、果実に汚れが付くものもあるので、十分注意する。

#### 2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、被害葉率及び発生地点率は平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチ導入後は、ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	じゃのめ病	発生量：やや多い	11月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：やや多い	11月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや少ない	11月下旬現在，平年より少ない発生である。向こう1か月の日照時間は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	11月下旬現在，平年並～やや多い発生である。各種ウイルス病を媒介するので注意する。

## Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 11月26日から12月25日)

気象庁 (11月25日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	20	70
降水量	関東甲信全域	20	30	50
日照時間	関東甲信全域	50	30	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 11月26日(土曜日)から12月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 12月3日(土曜日)から12月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<3週目から4週目の予報> 12月10日(土曜日)から12月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。